



まごころ通信

鏡の活用

▼割れない鏡

活動の部屋に鏡を複数設置しました。

鏡は割れてしまう恐れがあるので、今まで積極的に活用していませんでしたが、ホームセンター等で手に入る「窓用の断熱フィルム(シルバー)」を貼って、鏡の代用としてみました。本物の鏡の様にハッキリとは映りませんが、割れる心配がなく、シールの様にどこにでも貼れるので便利です。(平らな面に貼るのがコツです。)

主な活用法は以下の2点です。

▼余暇や遊びとして

自分の姿を鏡に映すことで一人遊びを楽しんだり、気持ちを落ち着けたりすることができます。(自分の身体を目で見て確認できるからの様です)

▼身だしなみの学習として

障害を持つ子にとって「きちんと」とか「だらしない」という表現はとてわかりにくいものですが、彼らも学校を卒業すれば社会人。鏡で確認して、イラスト等を使って伝えています。



中高生デイの女子更衣室。大きなサイズの姿見を貼ってみました。

「鼻水が出たままだと、なぜいけないのか？」をわかりやすく伝えるマンガ

小貫 悟・東京YMC A著「LD・ADHD・高機能自閉症へのライフスキルトレーニング」より抜粋



ヘルパーだより

NO.3

まごころの協力会員だったAさんは、今では要支援2の介護を受ける利用者さんです。

持病の「骨粗鬆症」が悪化して、一時は一人で通院することもできなくなり、車イスごと介助して受診したこともありました。現在は週3回のヘルパーの訪問で、掃除・買い物・入浴の見守りを行い、独り暮らしの生活を支えています。

今は一日、寝たり、起きたりの生活でも自身の身の回りのことはできるようになり、洗濯も竿を手が伸ばせる高さにして、自分で干したり、風呂の栓もイスを利用してかがんで蓋をするなど工夫と努力をされています。

ご近所の方や遠方の娘さんの訪問もたびたびあり、食べ物の差し入れがあつて困ることもありませんが、広告のチラシを見ては「これが食べたいな・・・」と思うとか。

「いつまでも住み慣れた自分の家で過ごしたい。」「遠くの娘よりまごころ」を頼りにしてもらっていて、これからも安心して在宅で暮らせるよう支援していきたいと思えます。

Aさんからのことば...

ご近所の方からも声掛けてもらって、ありがたいと思っています。

命ある限りはここでひっそりと暮らしたいと思っています。



ある日のミニデイの食事



心づれづれ



一步、一步

はじめまして、池戸と申します。3月からまごころで働いています。(44歳)

私は、4年ほど前に脳梗塞により、左半身に麻痺が残りました。その日以来、リハビリ生活をしています。リハビリの甲斐もあり、足の方はだいぶ回復し、杖があればかなり歩けるようになりました。

しかし、手の方は、ほとんど回復していない状態です。それで困るのが雨の日です。傘をさすと杖が持てないため、仕方なく帽子のみで対応していました。ずぶ濡れになりますが・・・

私は今、毎月第2・第4土曜日に稲沢市主催の体操教室に参加しています。

4月の土曜日、その日も朝から雨が降っていました。「嫌だな、休もうかな・・・」と一瞬思いましたが、考え直し、車を走らせました。福祉会館に着き、雨足が強くなっている。そこで、頑張って傘をさして歩いて行きました。一步、一步、慎重に。「よし、行けそうだ!」

歩きながら、教室の方を見ると、みんながこちらを見ている。そして、教室に着くと、みんなからの拍手と称賛の声が待っていました。『凄いな。傘をさして、歩けるんだ。』『会社、行くようになってから頑張ってるね。』等々、その場は照れくさかったですが、みんなから褒められた事が大変、嬉しかったです。

褒められるっていいな・・・褒められて、嬉しかったというお話です。

協力会員 池戸 敏夫



ミニデイだより



カレンダー作り

月に一回、創作の時間に、翌月のカレンダーを作製しています。季節にちなんだ絵を描いたり、塗ったり、貼ったり、切ったり、書を書き入れたりして、利用者さんオリジナルのカレンダーがみごとに出来上がります。中でも、特別な思いで取り組まれているKさんが、記事を書いてくださいましたのでご紹介いたします。



私が脳梗塞で倒れてから、10年近くまごころでお世話になっております。お陰様で、まごころで体や口を動かしたり、またいろいろな作品を製作したりして、脳を活性化させてもらい、病気も進行せず安定しており、本当に有難く楽しく、楽しく過ごさせてもらっております。ありがとうございます。

1月から毎月カレンダー作りをしておりますが、孫たちが正月に遊びに来た時に作品を見て永くん(長男の次男)が「おばあちゃんも行ってもいい?」と聞いたので「あげるよ」と言ったら嬉しそうに持って行きました。家に帰る時、わざわざ車から降りてきてカレンダーを掲げて「おばあちゃんこれありがとうございます!」と云ってくれました。私も心から嬉しく思いました。それから毎月郵送してあげたら寮生活の為、狭いけれど自分のベッドの処に貼り足しているそうです。心優しい子に育ってくれて嬉しく思います。

すべての人とすべてのことに感謝。本当にありがとうございます。

S・K